

1 学習指導と評価の改善・充実

～ キャリア教育の視点を踏まえた学習指導等の工夫～

(1) 職業教育とキャリア教育

北海道教育委員会では、発達段階に応じた組織的・系統的な教育活動の実施により、望ましい勤労観、職業観の育成を行い、精神的・社会的自立と、職業生活へのスムーズな移行を図り、生徒一人ひとりが「豊かな人生」を送ることを目指し、「北の人づくり」を推進している。特に、キャリア教育を「児童生徒が社会人・職業人として、主体的に自分の人生を生きるために必要な能力や態度、知識を学校の教育活動全体を通じて育てる教育」と定義し、積極的な推進に努めているところである。

また、職業教育は、学校教育において行われる場合に限定すれば、職業に従事する上で必要とされる知識、技能、態度を習得させることを目的として実施される教育であると考えることができる。職業教育においては、職業や仕事に役立つ知識・技能を身に付ける活動と、職業や仕事にどのような知識・技能が役立つのか、あるいは、自分が就きたい職業や仕事にどのような知識・技能が必要であるかなどを理解するための活動が密接に結びついている。

職業教育とキャリア教育は、ともに将来の職業や仕事と深くかかわって行われる教育活動であり、両者の活動内容や目標等には様々な共通点があることから、職業教育とキャリア教育の取組を進路指導の中核をなすものとして、教育課程等に位置付けることが大切である。

(2) 専門教科「福祉」とキャリア教育

従来、専門教科「福祉」においては、福祉関連業務に従事する者に必要な社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得や社会福祉の理念と意義の理解、社会福祉の増進に寄与する能力と態度の育成をねらいとする指導を充実し、人材の育成に努めてきた。しかし、生徒のキャリア発達をいかに支援するかという視点に立った指導が必ずしも十分に行われてきたとは言えない。

専門教科「福祉」を学んだ生徒の進路は、高齢者や身体障害者等の福祉施設、在宅介護サービス等の福祉関連施設・産業、病院、児童福祉施設、盲学校・聾学校・養護学校等への就職、大学・短期大学等の社会福祉、保育、看護、理学・作業療法等の学部・学科、専門学校への進学など多岐にわたっており、これらの進路実現には介護福祉士などの資格等の取得が大きな役割を果たしている。

今後、キャリア教育の視点に立って、生徒が働くことや専門的な知識・技術を習得することや、福祉に関連した資格等を取得することの意義を理解すること、生涯にわたるキャリアの基盤形成という観点から、科目やコース、ひいては将来の職業を自らの意志と責任で選択し、専門的な知識や技術の習得、能力と態度の育成に意欲的に取り組むことなどができるよう、指導の改善・充実を図ることが重要である。またその際には、実習先などの関係諸機関との連携及びその活用を促進していくことが必要である。

(3) 「職業観・勤労観」の形成に関連する4つの能力領域

専門教科「福祉」においてキャリア教育を推進する際の参考として、国立教育政策研究所生徒指導研究センターの開発した「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」における「職業観・勤労観」の形成に関連する4つの能力領域がある（本手引の「総則」参照。）。4つの能力とは、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」であり、小学校の低・中・高学年、中学校、高等学校のそれぞれの段階において身に付けることが期待される能力・態度を具体的に示している（表1）。次の章では、専門教科「福祉」においてこれらの諸能力がどのように各科目の中に位置付けられているか、また、学年とともにどのように発展していくのかを例示する。

表1 「職業的（進路）発達にかかわる諸能力と職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度」

領域	領域説明	能力説明	高等学校での職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	<p>【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力</p> <p>【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 互いに支え合い分かり合える友人を得る。 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。 リーダー・フォロアーシップを發揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	<p>【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力</p> <p>【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。 就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	<p>【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p> <p>【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。 生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 将来設計・進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組む克服する。	<p>【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力</p> <p>【課題決定能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。 将来設計・進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服すスキルを身に付ける。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の改善・工夫～

(1) 第1学年でのキャリア教育の視点を踏まえた学習指導の例

「社会福祉基礎」は、科目の性格やねらいから、教育課程上、低学年で履修することとされており、福祉に関する学科においては、今後の専門的な学習への動機付けを図るといった性格を有する科目である。指導に当たっては、社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、社会福祉の意義や役割などを理解させていく中で、社会福祉に対する広い視野と福祉観を養うとともに、様々な福祉関連業務についての基本的な知識や役割及びやりがいなどを生徒に理解させることが大切である。また、学習を通じて専門教科「福祉」を学ぶ意欲が高まり、就職や進学に必要な資格等の取得への動機付けがなされ、福祉関連業務への従事を意識した将来設計を自ら意欲的に取り組んでいけるような指導をしていく必要がある。ここでは「社会福祉基礎」におけるキャリア教育の例を表2として掲載する。

表2 「社会福祉基礎」におけるキャリア教育の例

科目名	社会福祉基礎		
単元名	社会福祉の担い手と福祉社会への展望		
単元の目標	(1) 福祉社会を創造していくために必要な社会福祉従事者の職種とその専門性について知る。 (2) 相互扶助の精神に基づいた国民一人一人の意識改革の重要性、必要性について理解する。 (3) これからの福祉社会を創造する上で重要な、人権の尊重やノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて理解する。		
	学習内容	生徒の主な学習活動	主にかかわるキャリア教育の能力
第1次 社会福祉の 担い手	社会福祉従事者の現状	KJ法を使ったグループ学習で社会福祉従事者のイメージを挙げさせ、その職種をまとめる。	・情報活用能力
	社会福祉専門職の資格及び業務内容と資質	地域の社会福祉施設に見学に行き、社会福祉専門職の資格及び業務内容と資質を中心に聞き取り調査を行い、レポート作成及び発表学習を行う。	・人間関係形成能力 ・情報活用能力 ・将来設計能力
	社会福祉の人材の動向と確保	社会福祉を担う人材の現状と今後の見通し等について学習する。	・将来設計能力
	社会福祉従事者の職業倫理	事例を通して、介護者の望ましいかわり方について学習する。	・将来設計能力
第2次 福祉社会の 創造	福祉のまちづくり、心のバリアフリー	事例を通して、バリアフリーについて整理する。提示された町の絵や文章からバリアとなるものを的確に見だし、解決方法について発表学習を行う。	・意思決定能力
	ボランティア活動の展開	休業中に自分が体験したボランティアを列挙させ、よりよい福祉社会を創っていくためのボランティアについて学習する。	・意思決定能力
第3次 21世紀福祉 社会の展望	21世紀福祉社会の展望	21世紀における福祉社会の展望について、最新の社会福祉の動向を整理しながら学習する。	・将来設計能力

「社会福祉の担い手と福祉社会の展望」の内容を扱う場合、「第1次 社会福祉の担い手」の「社会福祉専門職の資格及び業務内容と資質」では、生徒自身が地域の社会福

社施設で働いている福祉専門職に対して聞き取り調査を行うことで、「人間関係形成能力」における【コミュニケーション能力】を身に付け、その資格や業務内容を理解することで「情報活用能力」における【職業理解能力】を身に付けることができる。さらに、学習を通してその職業の業務内容のみならずその意義ややりがいを理解し、生徒自身がその職業に就きたいと思い、学習意欲を高めることになれば「将来設計能力」における【計画実行能力】が身に付いたことになる。

「第2次 社会福祉の創造」の「ボランティア活動の展開」では、事前に生徒に長期休業などを利用してボランティア活動を行うよう指導し、それらの体験をもとによりよい福祉社会を創っていくためのボランティアについて学習する。生徒は多様な選択肢の中から自己の意志と責任で、ボランティア活動を選択・実施しなければならないことから、「意思決定能力」の【選択能力】が必要となる。また、自分を生かしながらボランティアとしての役割を果たしていく上で、様々な課題に直面することとなる。その解決策を探していく中で、「意思決定能力」の【課題解決能力】の基礎を身に付けることができる。こうした体験の積み重ねによって、様々な選択肢の中から、ふさわしい進路選択・決定を主体的に行うとともに、その選択結果の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力を育むことになる。

(2) 第2学年でのキャリア教育の視点を踏まえた学習指導の例

「社会福祉基礎」での学習を通して高めた動機を福祉関連業務への従事を意識した将来設計に結びつけるなど、生徒が意欲的に学習に取り組んでいくためには、学年進行に伴い、進路に対応した系統的な学習指導を行うとともに、社会福祉の質はサービス提供者の資質と能力に大きく左右されることを踏まえ、臨床性、臨地性の高い実践的な学習やサービス提供者が社会的責任を負っていることなどについて学習を行う必要がある。

専門教科「福祉」の科目「社会福祉援助技術」及び「基礎介護」は、技術的な科目として位置付けられており、これらの科目で習得した技術をもとに社会福祉現場実習に臨むことで、生徒自身がより明確な福祉関連業務への従事を意識した将来設計を目指していくことができる。ここでは「社会福祉援助技術」におけるキャリア教育の例を表3として掲載する。

表3 「社会福祉援助技術」におけるキャリア教育の例

科目名	社会福祉援助技術		
单元名	社会福祉援助技術の方法と実際		
单元の目標	(1) 援助を必要とする人のニーズの把握から援助の評価までの過程や方法に関する基礎的な知識や援助技術について理解する。 (2) 専門分化した方法論ではなく、統合化された方法として、事例を通して援助方法の実際について理解する。		
	学習内容	生徒の主な学習活動	主にかかわるキャリア教育の能力
第1次 個別的な援助	個別的な援助とは何か	事例を用いて、個別的な援助の意義、役割と構成要素について理解する。	
	面接援助の技術	信頼関係を築く面接援助の基本的な方法について体験的に学習する。	・人間関係形成能力
	個別的な援助の原則	対人援助のかかわり方をバイステックの7原則を通して体験的に学習する。	・人間関係形成能力

	個別的な援助の展開過程	事例を用いて、グループごとに事例から問題点と改善方法を考察する。	
第2次 集団及び家族への援助	集団への援助とは何か	事例を用いて、集団への援助の意義、役割と構成要素について理解する。	
	集団への援助の原則	擬似場面を想定し、プログラムの計画・実施を体験的に学習する。	・人間関係形成能力
	集団への援助の展開過程	擬似場面を想定し、集団への援助過程を体験的に学習する。	・人間関係形成能力
	家族への援助	視聴覚教材を用いて、援助を必要とする人の家族支援について考察する。	
第3次 地域を基盤とした援助	地域を基盤とした援助とは何か	ホームページや広報から地域調査を行い、レポート作成及び発表を行う。	・将来設計能力
	地域を基盤とした援助の原則	地域を基盤とした援助について、地域の比較をしながら整理する。	・将来設計能力
	地域を基盤とした援助の展開過程	視聴覚教材を活用し、援助過程について学習する。	
	地域を基盤とした援助の活動・方法	地域の社会福祉協議会の職員を招聘し、実践報告を聴く。	・情報活用能力 ・将来設計能力 ・意思決定能力

単元「社会福祉援助技術の方法と実際」の内容を扱う際、「第1次 個別的な援助」の「面接援助の技術」及び「第2次 集団及び家族への援助」の「集団への援助の原則」では、相談援助などの擬似場面を設定し、生徒同士がロールプレイを通して適切な傾聴の仕方や質問の仕方、集団へのかかわり方などを体験的に学習することが大切である。

ロールプレイでは、生徒が自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志を的確に理解し、リーダーシップやフォロアシップを発揮してチームワークを高める力を育むことにより、「人間関係形成能力」における【コミュニケーション能力】を身に付けることができる。

「第3次 地域を基盤とした援助」の「地域を基盤とした援助の活動・方法」では、地域の社会福祉協議会の福祉活動専門員を招聘し、地域で実施している介護保険制度の介護サービスやその他在宅福祉サービスの実施状況、小地域福祉活動など各種地域団体の活動状況などについて説明を受け、理解することで、「情報活用能力」の【情報収集・探索能力】を身に付けることができる。さらに、その地域の社会福祉実践についての講義を通して、生徒は自らの生活する地域社会に目を向け、自分を生かす役割を自覚し、かつ、それを果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する「将来設計能力」の【役割把握・認識能力】及び「意思決定能力」の【課題解決能力】を習得することができる。

(3) 第3学年でのキャリア教育の視点を踏まえた学習指導の例

福祉に関する学科において、「社会福祉演習」は、生徒一人ひとりの特性・興味・関心・進路希望等、多様な実態に応じて教育活動を適切に進めていく必要があることから、原則としてすべての生徒に高学年で履修させる科目として位置付けられている。また、「社会福祉演習」は、事例研究などの学習を通じて、生徒の問題解決能力を育成するとともに、専門的な知識と技術の深化、総合化を図ることを目的としており、「職業観・

「勤労観」の形成に関連する4つの能力を伸ばす上でも大きな役割を果たす科目である。
ここでは「社会福祉演習」におけるキャリア教育の例を表4として掲載する。

表4 「社会福祉演習」におけるキャリア教育の例

科目名	社会福祉演習		
单元名	ケアプラン作成の演習		
单元の目標	(1) 福祉に関する科目や現場実習等での体験をもとに社会福祉サービス利用者を想定して、ケアマネジメントの必要性とその人が活用できる社会資源について理解する。 (2) アセスメントなどを行い、要介護者に適した自立生活支援のプロセスを考えたケアプランを作成し、専門的な知識と技術の深化・総合化を図るとともに、実践的に学習することにより、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
	学習内容	生徒の主な学習活動	主にかかわるキャリア教育の能力
第1次 生活ニーズ の導き出し 方	想定事例における利用者理解	事例にある利用者の置かれている状況について、グループごとに整理し、生活ニーズを抽出する。	・人間関係形成能力 ・意思決定能力
第2次 ケアプラン 作成	援助目標の記入	ケアカンファレンスを擬似的に想定し、グループ内で討論し、望ましい援助目標・結果について考察する。	・人間関係形成能力 ・意思決定能力
	活用する社会資源の検討	単価表を参考にし、生活ニーズに合致した社会資源をグループで検討する。	・人間関係形成能力 ・情報活用能力 ・意思決定能力
	作成したケアプランの発表	グループごとに抽出した生活ニーズ、援助目標と適切な社会資源を発表する。	・人間関係形成能力 ・意思決定能力

介護福祉士の資格取得を目指す学科においては、専門知識や技術の習得はもとより、利用者の立場からサービスを提供することができるよう実践的な態度を育てることが大切であることから、ケアプラン作成の学習は欠かすことができない。

「想定事例における利用者理解」では、事例にある利用者の置かれている状況について、グループごとに身体機能状況・精神心理状況・社会環境状況の3つの観点から整理し、グループ内で自分の考えを出し合い生活ニーズを導き出す。また、擬似的に想定したケアカンファレンスを行い、生徒がそれぞれ率直な意見を出し合い、他の生徒の意見を聴くことで、グループとしての援助目標を計画する。これらの活動を通して、「人間関係形成能力」の【自他の理解能力】と【コミュニケーション能力】を身に付けるとともに、グループによる話し合いを重ねる中で、「意思決定能力」の【選択能力】と【課題解決能力】を習得することができる。

「活用する社会資源の検討」では、事例にある利用者の生活ニーズに合致した社会資源をグループで検討しケアプランを作成する過程で、関連する福祉関連職種の情報を集めるとともに、それぞれの職種の役割や意義を理解していなければならないため、「情報活用能力」の【情報収集・探索能力】と【職業理解能力】を身に付けることができ、また、生徒は、事例にある利用者のライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解した上で、生きがいを保障する生き方を現実的に考えなければならないため、他の科目で身に付けた「将来設計能力」の【役割把握・認識能力】と【計画実行能力】を活用することが求められる。

ここでは、専門教科「福祉」におけるキャリア教育を踏まえた学習指導例を、いくつか具体的に挙げたが、このほかにも様々な考え方や方法があることから、教科の特性や生徒のキャリア発達を踏まえて、各学校において工夫することが望まれる。